

大好きな日本史にどっぷりと浸ることができました  
 時々誇々といった雰囲気活発に議論  
 指導教員の先生の紹介で史料館にて古文書の調査・整理のアルバイトをしたり、  
 本学院の高等部で非常勤講師をしたり  
 自分の専門を生かした授業を、自信を持って行えるのは、  
**大学院で専門性を高めたから**  
 大学院で専門的にじっくり学んだ経験は、絶対に強みになる

もっと語学力を磨きたい  
 熱意のある人たちがたくさん集まって  
 やりたいことに挑戦する時間  
 大学院で語学をしっかりと身に付けたことが役立った  
 大学院での学びは、確実に今の自分の糧になっています  
**新たな道**

大学に残ってもっと勉強を続けたいという思いが強くなった  
 日仏交流コーディネーターとしてフランスに1年間派遣  
 「文法力がしっかり身に付いている」と評価していただきました  
**院に進んだ私の同級生たちもそれぞれが個性豊かな道に進んでいます。**

将来について改めて考えるために  
**必要な時間**

恵まれた環境で哲学を学ぶ  
 絶対矛盾的自己同一  
 哲学は世の中にとって絶対に必要  
 将来について改めて考えるために必要な時間  
 素晴らしい場所

好きなことに没頭した大学院時代が今につながっている。  
 大学院への進学を決めたのは、3回生の12月  
 ゼミの先生に相談したところ、「好きなことを書きたいなら院に進めばいい」と背中を押されて  
 院での学びが仕事に直結  
**地道にコツコツ取り組んでいればきっと道は拓けます**  
 修士課程を終えて一般企業に就職する人もいます

# 学部から研究科へ。 深まる知識、広がる未来。 “先輩たち”へのインタビュー

芸術史が軽視されることに違和感  
 ハーディ・ガーディ  
 自ら道を切り拓いていかなくはいけません

## 着実に成長できる環境

文章力やプレゼン力  
 日本学術振興会特別研究員  
 特別任用助教  
 研究の面白さに魅了され

院生との距離が近く、研究について話す機会が多かったことも、進学を自然に意識した理由の一つ  
 他大学の先生や院生と合同で行う研究会にも参加  
 国際学会の時はみんなで軒家を借りて共同生活

必ずしも研究者にならなくても、心理学の強みを生かせる  
**進路はたくさんあります**

博士号を持っている人を積極的に採用する企業も増えつつある

## 就職か進学か

やはり自分は大学院に進みたい  
 関西圏の他大学の院生とも、合同の研究会などを通じて交流を深め  
 大学院時代に持続性のあるテーマを見出すことの大切さ  
 研究がどのような意味を持って学問に寄与するのか、  
 学問分野における位置づけを常に考える

## “先輩たち”へのインタビュー

|  |   |
|--|---|
|  小川 洋和 先生……………    | 2 |
| 心理科学専修   |   |
|  木村 遥 先生……………     | 3 |
| 美学芸術学専修  |   |
|  小南 悠 先生……………     | 4 |
| 英米文学英語学専修  |   |
|  濱田 琢司 先生……………    | 5 |
| 地理学地域文化学専修   |   |
|  安田 英里香 さん…………… | 6 |
| 日本史学専修   |   |
|  小林 沙羅 さん……………  | 7 |
| フランス文学フランス語学専修   |   |
|  O. N. さん……………  | 8 |
| 哲学倫理学専修  |   |
|  武田 有里子 さん…………… | 9 |
| ドイツ文学ドイツ語学専修   |   |

|                           |    |
|---------------------------|----|
| “先輩たち”の修士論文・博士論文タイトル…………… | 10 |
|---------------------------|----|

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 文学研究科博士課程 学位取得プロセス…………… | 12 |
|-------------------------|----|

|           |    |
|-----------|----|
| 情報発信…………… | 13 |
|-----------|----|



“先輩たち”への *interview*





### Profile

1998年3月

文学部 心理学科 卒業

2000年3月

文学研究科 博士課程前期課程  
心理学専攻 修了

2003年3月

文学研究科 博士課程後期課程  
心理学専攻 修了 博士(心理学)

院で学びを深めた先には、  
心理学を生かした  
多様な進路がある。

関西学院大学 文学部 教授

## 小川 洋和先生

心理科学専修

*Hirokazu Ogawa*

高校時代に観た映画がきっかけで犯罪心理学に興味を持ち、心理学科に進学しました。子どもの頃からパソコンも好きで、心理学とうまく結びつけられないかと考えていたところ、八木昭宏先生(現・関西学院大学名誉教授)の生理心理学の研究室に出会って興味を持ち、大学院に進みたいと考えるようになりました。八木研究室で行っていた脳波の実験に被験者としてよく参加していたため、院生との距離が近く、研究について話す機会が多かったことも、進学を自然に意識した理由の一つです。

卒業論文で取り組んだのは、脳波を使った研究でした。修士課程からは、ヒトが外界の情報をどのように選択して処理しているのかという問題に関心を持ち、視覚に関する研究を始めました。近しいテーマを扱っている八木研究室出身の先輩に声を掛けていただき、他大学の先生や院生と合同で行う研究会にも参加するようになり、さらに視野が広がりました。

研究会で合宿をして夜中まで議論をしたり、国際学会の時はみんなで一軒家を借りて共同生活をしたりと、他大学の先輩や後輩と一緒に研究に向き合う日々が楽しく、モチベーションアップにもつながっていました。今でも学会に行くと当時の仲間に出会えるので、ちょっとした同窓会のように、人とのつながりが自分の財産になっていると感じます。

私はそのまま研究を続けて、大学教員として研究・教育に携わる道に進んだため、大学院時代の学びや経験が仕事に直接生かされています。しかし、必ずしも研究者にならなくても、心理学の強みを生かせる進路はたくさんあります。例えば、近年はデータサイエンスがさまざまな分野で注目されていますが、まさに心理学は人間を対象としたデータを取得し、それを分析する学問ですから、その力をアピールしてコンサルティング会社などに就職する道もあります。最近では博士号を持っている人を積極的に採用する企業も増えつつあるため、今後はさらに可能性が広がっていくのではないのでしょうか。

関西学院大学 文学部 特別任用助教

# 木村 遥先生

美学芸術学専修

Haruka Kimura

子どもの頃からクラシックバレエを習っていたことや、中学高校時代にオーケストラ部でヴァイオリンを弾いていたことが、音楽に関心を持つようになったきっかけです。高校では歴史の授業が好きだったのですが、なかでも芸術史が軽視されることに違和感を覚えていました。たとえば、17世紀のフランスでは政策の一環で芸術が注目を集めたにもかかわらず、学校の歴史の授業では、その内容には詳しく踏み込んでくれません。自分の音楽経験も相まって、次第に音楽に対して学問的に取り組んでみたいと思うようになり、音楽学を学ぶことができる文化歴史学科の美学芸術学専修へ入学しました。大学院進学を決めたのは、3回生の秋ごろです。「このまま就職していいのか。もっと学びを深めたい。」そんな思いが強くなり、大学院への進学を決意しました。

学部生のころから現在に至るまで、私は一貫してハーディ・ガーディという弦楽器を研究しています。人文学系の大学院では、指導教員と自分の研究テーマが全く同じであることは稀なので、一人ひとりが自分の専門性を高め、自ら道を切り拓いていかななくてはなりません。例えば社会人1年目なら、仕事をする上で社内のマニュアルがあったり、上司や先輩が指導してくれたりすることが多いと思います。大学院でも指導教員に指導していただいたり、研究室の仲間と切磋琢磨したりすることはできますが、基本的には自分で模索しながら研究を進めていく力が求められます。大変なこともたくさんありますが、その分、着実に成長できる環境です。私の場合、研究分野の専門性を高められたのはもちろん、文章力やプレゼン力も磨くことができました。

私は日本学術振興会特別研究員（DC、PD）を経て、現在、本学の文学部で特別任用助教を務めています。修士課程修了後には一般企業に就職する道もありますが、私は、研究の面白さに魅了されて研究者を志し、博士課程に進学しました。多くの場合、研究者を目指すか否かは修士課程で決断することになると思います。大学院進学を検討している学部生の方は、指導教員の先生に相談するなどして、まずは大学院がどんなところかを調べることをおすすめします。自らの将来の可能性を広げるために、さまざまな世界に積極的に飛び込んでみてください。



## Profile

2017年3月

文学部 文化歴史学科  
美学芸術学専修 卒業

2019年3月

文学研究科 博士課程前期課程  
文化歴史学専攻 美学芸術学領域 修了

2022年3月

文学研究科 博士課程後期課程  
文化歴史学専攻 美学芸術学領域 修了  
博士（芸術学）

将来の可能性を広げるために  
後悔のない選択を。





立教大学 文学部 助教

小南 悠先生

英米文学英語学専修

*Yu Kominami*

### Profile

2016年3月

文学部 文学言語学科  
英米文学英語学専修 卒業

2019年3月

文学研究科 博士課程前期課程  
文学言語学専攻 英米文学英語学領域 修了

2022年3月

文学研究科 博士課程後期課程  
文学言語学専攻 英米文学英語学領域 修了  
博士(文学)

大学院への進学を決めたのは、3回生の12月です。文章に携わる仕事をしたいという思いからマスメディア系を志望して、みんなと同じように就職活動を考えていました。しかし大学でずっと学んできた英語を就活で使う機会がなかったことから、一度立ち止まって、就職以外の道はないのかと考えてみました。アメリカ文学のゼミに所属していたので、このまま大学院に進めば、自分の好きな文章を読んだり書いたりできるだろうと思い、ゼミの先生に相談したところ、「好きなことを書きたいなら院に進めばいい」と背中を押されて、進学を決心したのです。

大学院時代は、朝7時に学校に来て、21時か22時頃までずっと本を読んだり論文を書いたりする生活でした。好きなことに一日中没頭できる生活が楽しくて、修士1年目には「博士課程に行って、将来は研究の道に進もう」と決めていました。理系の大学院生のように、同じ研究室の人たちと一緒に研究に取り組むわけではないので、ひたすら自分のテーマに向き合う日々孤独を感じることもありました。たまたま自分と同じ作家を研究している仲間がいたので、横のつながりに助けられました。研究についての情報交換をし、時には雑談で息抜きをしながら、お互いに支え合って乗り越えたことは良い思い出です。

現在は立教大学文学部で助教として研究・教育に携わっています。今まで研究してきたアメリカの作家や作品について授業をしているので、ありがたいことに院での学びが仕事に直結しています。

大学卒業後、修士・博士課程に進んで研究者になるという進路を選ぶ人は多くはないので、学部生の方にとってはイメージしづらいかもしれません。けれども地道にコツコツ取り組んでいけばきっと道は拓けます。それに、誰もが研究の道に進むわけではなく、修士課程を終えて一般企業に就職する人もいますから、もし大学院で取り組んでみたいテーマがあるなら、一度チャレンジしてみると良いのではないのでしょうか。

好きなことに没頭した  
大学院時代が  
今につながっている。



# 濱田 琢司先生

地理学地域文化学専修

*Takuji Hamada*

高校生の頃から、将来は研究職に就きたいという思いを抱いていました。具体的に考えるようになったのは、大学3年生になってからです。就職か進学か、進路を決める時期になって、やはり自分は大学院に進みたいと思い、指導教員の先生にも相談して決断しました。

大学院時代は、先生や先輩たちから教わったり、自由に意見交換をしたりできる、とても恵まれた環境で学びを深めることができました。学内だけでなく関西圏の他大学の院生とも、合同の研究会などを通じて交流を深め、大いに刺激を受けました。当時の研究会のメンバーは、現在も研究・教育に携わっている人が多く、今でも交流が続いています。

私の研究テーマは、卒業論文では「農山村地域を対象としたまちづくりコンクール」を扱いました。そのなかで、都市との交流が重要なポイントになっていることに関心を持ち、そこから「中央地方関係と地域文化との関わり」を次の研究の主軸にしたいと思うようになりました。他方、私の祖父が、地方手工芸の復興運動でもあった民藝運動に関わっていた陶芸家だったこともあり、自分のルーツと卒業論文の時の関心がミックスされて、修士・博士課程では「民藝運動を中央地方関係の視点でとらえ直し、地域文化との関わりを探っていく」というテーマに取り組みました。そのままの関心を持ちながら研究を続け、今に至っているので、大学院時代に持続性のあるテーマを見出すことの大切さを、今振り返ってみて改めて感じています。

もう一つ、研究者にとって重要なのは、自分の研究がどのような意味を持って学問に寄与するのか、学問分野における位置づけを常に考えることだと思います。研究上の視野を広く持ち、自分の関心を客観的に位置づける力は、どの分野でも求められる大切な力ではないでしょうか。

また、私の場合は、専門である地理学だけでなく、民藝運動を通じて地域・民俗文化や工芸の分野にも手を伸ばして研究してきたことで、学際的な学びを扱う学部で研究・教育に携わる経験もできました。このように、自分の専門を深めつつも、さらに関心を広げて、他にも得意分野を作っておくことも、将来においてプラスになるかもしれません。



## Profile

1996年3月

文学部 史学科 地理学専修 卒業

1998年3月

文学研究科 博士課程前期課程  
西洋史学専攻 修了

2004年1月

文学研究科 博士課程後期課程  
西洋史学専攻 修了 博士(地理学)

大学院時代に見出した  
持続性のあるテーマを追求。





関西学院千里国際中等部・高等部 講師

## 安田 英里香さん

日本史学専修

*Erika Yasuda*

### Profile

2021年3月

文学部 文化歴史学科  
日本史学専修 卒業

2023年3月

文学研究科 博士課程前期課程  
文化歴史学専攻 日本史学領域 修了

学部進路決定時は国際関係学とも迷いつつも、小学生の頃からずっと歴史が好きだったので日本史を専攻できる大学を選びました。高校時代から大学院への憧れは抱いていましたが、進学を決めたのは3年生になってからです。1回生の頃から古文書の勉強会に参加していたので、院生の先輩たちと接する機会が多く、大学院の存在は身近に感じていました。でも、実際に自分が行くとなると、本当にやっつけられるだろうかという不安がありました。進路を決める時期になって家族に相談したところ、「行きたいならぜひ行ったらいい」と背中を押してもらい、決心しました。

学部生の頃は、教職課程や博物館学芸員課程のさまざまな科目を受講し、語学にもとても力を入れて学んでいたのですが、大学院では大好きな日本史にどっぷりと浸ることができました。所属していた研究室では、博士課程前期課程・後期課程の学生が合同でゼミを行っており、論文講読や史料輪読を通して学びを深めると共に、先輩方の研究発表からも多くの学びを得ました。喧々諤々といった雰囲気でも活発に議論が交わされ、とても楽しかったです。

また、日本史学以外にも学校教育学の科目も受講していました。

博士課程前期課程の2年間は、学内だけでなく学外での活動も積極的に行っていました。他大学と合同の研究會に参加したり、指導教員の先生の紹介で史料館にて古文書の調査・整理のアルバイトをしたり、本学院の高等部で非常勤講師をしたりと、大学院に進んだことで数多くの貴重な経験をする事ができ、将来の選択肢も広がりました。

現在は、本学院の千里国際中等部・高等部で講師を務めています。古文書の写真を見せて生徒たちの興味を引き出すなど、自分の専門を生かした授業を、自信を持って行えるのは、大学院で専門性を高めたからこそだと感じています。生徒たちの授業中の活動でも、自分自身が研究に取り組んでいた頃の経験を生かしてアドバイスをすることができます。博士課程前期課程修了後は、教員や学芸員、企業への就職など色々な進路がありますが、どんな道に進むとしても、大学院で専門的にじっくり学んだ経験は、絶対に強みになると思います。

専門的に学んだ経験は  
必ず自分の強みになる。



# 小林 沙羅さん

フランス文学フランス語学専修

*Sara Kobayashi*

小学生の頃に家族旅行で現地を訪れたことがきっかけで、フランスの文化に興味を持ちました。その後、高校で第2外国語としてフランス語を選択し、大学ではフランス文学を専攻しました。大学院進学を決めたのは、3回生の時です。1・2回生は語学の授業が中心でしたが、3回生からゼミが決まって専門分野の学びが本格的に始まり、大学に残ってもっと勉強を続けたという思いが強くなったのです。

修士1年目は、ひたすら授業の予習・復習をする日々を送りました。学部の授業よりも専門性が高く、付いていくのに精いっぱいでしたが、興味のある分野の学びを深められる貴重な時間だったと思います。2年目以降は自分の研究テーマにじっくりと向き合い、家や図書館で研究しながら、週1回は指導教員の先生の指導を受けていました。

大学院卒業後は、兵庫県とフランスのセヌ・エ・マルヌ県が行う人物交流プログラムの一環で、日仏交流コーディネーターとしてフランスに1年間派遣していただく機会に恵まれました。派遣の前には語学の試験がありましたが、修士論文の際に先生から丁寧な指導を受けてきたおかげで、「文法力がしっかり身に付いている」と評価していただきました。また、現地では日本文化について人前で発表する機会が多く、大学院時代に研究会などで発表する際、どう伝えたらわかりやすいだろうかと工夫を凝らした経験を生かすことができました。

現在は、本学のフランス文学フランス語学研究室の教務補佐として、先生方や学生さんたちのサポートをする仕事をしています。学部生の中には大学院進学を迷われている方もいると思いますが、もしもっと勉強したい気持ちがあるなら一歩踏み出してみたら良いのではないかと思います。私自身、卒業後の進路で専門分野を生かすことができましたし、院に進んだ私の同級生たちもそれぞれが個性豊かな道に進んでいます。人生は長いですから、修士課程を終えてから社会に出ても遅くはありません。



## Profile

2014年3月

文学部 文学言語学科  
フランス文学フランス語学専修 卒業

2017年3月

文学研究科 博士課程前期課程  
文学言語学専攻  
フランス文学フランス語学領域 修了

修士で深めた専門性を生かし  
卒業後はフランス派遣も経験。





東京都江戸川区 職員

O. N. さん

哲学倫理学専修

O. N.

### Profile

2008年3月

文学部 文化歴史学科  
哲学倫理学専修 卒業

2011年3月

文学研究科 博士課程前期課程  
文化歴史学専攻 哲学倫理学領域 修了

哲学に没頭しながら、  
将来を見つめ直した  
大切な時間。

修士課程に進もうと決めたのは、4回生になってからです。就職活動で何社か最終面接まで進んでいたのですが、どうしてもしっくりこず、こんな気持ちのままでは就職できないと感じて辞退しました。一度立ち止まって進路を考え直した時、これから先の人生でこんなに恵まれた環境で哲学を学ぶことができるのは今しかないという気持ちが強くなり、大学院進学を決意しました。

大学院では、卒業論文で扱った哲学者・西田幾多郎について、継続して研究しました。大学の授業で西田の「絶対矛盾的自己同一」という言葉に出会って感銘を受け、もっと知りたいと研究を始めたのですが、学部だけでは時間が全く足りなかったのです。西田に出会っていなければ、院に進もうとは思わなかったかもしれません。

大学院の授業は学部よりも少人数で、先生1人に対して学生が2人という授業もあり、とても贅沢な環境で学ぶことができました。同期の仲間とよく飲みに行き、哲学の話や他愛のない話をしたことも楽しい思い出です。

現在は、東京都江戸川区の職員として働いています。正直なところ、哲学が仕事に直接役立つことはありませんが、仕事をすればするほど、哲学は世の中にとって絶対に必要なものだという思いが強くなっています。区役所には、年齢も国籍も境遇も異なるさまざまな方たちが訪れます。そんな多様な人たちが生きている社会で、一つの考えを掲げ、それに基づいてあらゆることを論じようとする哲学という学問は、人間の活動としてなくてはならないものだと思うのです。

私が公務員を志したのは、人のために働こうと思ったからです。企業の場合、顧客と利益の両方を意識して働くことが求められますが、そういった働き方に馴染めないだろうと自覚したのは大学院生の時です。私にとって修士課程は、将来について改めて考えるために必要な時間でもあったのだと思います。考える時間を得られる場所として、大学院ほど素晴らしい場所はありません。



佐賀県 地域おこし協力隊

# 武田 有里子さん

ドイツ文学ドイツ語学専修

*Yuriko Takeda*

大学院進学を考え始めたのは、ドイツへの留学中です。2回生の秋から3回生の秋にかけて、1年間の交換留学を経験したのですが、実際に現地でドイツ語を使ってみて、大学院で研究し、もっと語学力を磨きたいと考えるようになりました。

大学院には、「学びを深めたい」「研究に向き合いたい」という熱意のある人たちがたくさん集まっています。語学力も高い人ばかりで、とても良い刺激を受けました。先輩たちと一緒に学会発表をするため、必死で準備に打ち込んで、本番が終わった後に大きな達成感を得たことは今でもよく覚えています。

夏季休暇中には、ドイツで2週間のインターンシップも経験しました。大学院生活は、自分で時間を調整できるので、やりたいことに挑戦する時間が得られるのも魅力だと思います。

修了後は旅行会社に就職し、約2年後に退職してドイツへ渡りました。ドイツでは飲食店の副店長として働いていました。日本人の店長と現地の従業員とのコミュニケーションなど、主に語学面のサポートをしていたのですが、大学と大学院で語学の基礎をしっかりと身に付けたことが役立ったと思います。

帰国後は、佐賀県の地域おこし協力隊として、多文化共生を推進する部署に所属し、外国人住民の方と地域の方の交流を増やすためのさまざまな取り組みを行っています。そこでまず課題となるのが、言葉の壁です。私は語学を学び、外国での生活も経験してきたので、外国人の方たちがどんなことにつまずき、困っているのか、共感し、地域の方にも思いを伝えられるのではないかと考えています。

学生時代は、現在の仕事をしているとは想像もしませんでした。私はこの仕事が好きで自分に合っていると思っています。大学と大学院での学びは、確実に今の自分の糧になっています。これまでを振り返ってみて、何一つ無駄な経験はありません。進路に迷った時は興味のあることに一度飛び込んでみると、その先に新たな道が見えてくるのではないのでしょうか。



## Profile

2016年3月

文学部 文学言語学科  
ドイツ文学ドイツ語学専修 卒業

2018年3月

文学研究科 博士課程前期課程  
文学言語学専攻  
ドイツ文学ドイツ語学領域 修了

語学にじっくり  
向き合った経験を  
多文化共生の推進に生かす。



# “先輩たち”の修士論文・博士論文タイトル

|         |                |  |   |
|---------|----------------|--|---|
| 文化歴史学専攻 | 哲学倫理学領域        | <p>和辻哲郎の「個人」観～人間存在における個人の位置づけ～</p> <p>自然主義に基づく自由意志論と道徳的責任</p> <p>現存在の開示性を受動的観点から再検討する：ディードリヒ・ボンヘッファーとシモース・ヴェイユの宗教性を手掛かりとして</p> <p>ショーペンハウアー哲学が生成する場所－文体と精神の観相学的読解－</p> <p>意図なき意思「SPONTANEOUS－WILL」の実像－情念及び理性・道徳・正義について－</p> <p>苦しみと人間</p> <p>日本語の分析に基づく全面的表出主義－道徳文および事実文における論理性構築の試み－</p> <p>自由の体系の象徴としての自然：カント『判断力批判』における体系問題の解明</p> <p>カントにおける実践哲学と目的論 &lt;何のために&gt;を問うことの倫理的意義</p> <p>九鬼周造における美と道徳</p>  |   |
|         | 美学芸術学領域        | <p>P.I. チャイコフスキーの作品に見られるロシア正教会の要素</p> <p>フラゴナール&lt;ぶらんこ&gt;における図像の独自性と演劇的要素</p> <p>李禹煥における絵画の両義性－1960年代から1970年代を中心に－</p> <p>幾原邦彦研究－形式と内容を中心に－</p> <p>Gypsy Punk における“Gypsy”と“Cabaret”の結びつき－ポピュラー音楽におけるジプシー表象に関する一考察－</p> <p>映画の美的無重力</p> <p>ゾーン／フォアマン ASTRONOME 論</p> <p>映像における「本物」に見える人形とは：記号学とコミュニケーション学の観点から</p> <p>J・W・ウォーターハウスとヴィクトリア朝後期の絵画－ラファエル前派「第三世代」を超えて</p> <p>ハーディ・ガーディ 論序説－16世紀から19世紀初頭のフランスおよびドイツ語圏における楽器構造と受容の側面</p> <p>トガにおける「動き」の表現の進化と広がり－19世紀のテクノロジーと新たな視覚から－</p> |   |
|         | 地理学<br>地域文化学領域 | <p>医療サービスの空間的不均衡と医療生協の展開－兵庫県における医療生協を事例に－</p> <p>ドイツにおける近代ツーリズムの形成と旅行印刷物</p>   |   |
|         | 日本史学領域         | <p>得宗家嫡流伝事の考察－「北条貞時十三年忌供養記」を題材に－</p> <p>近世後期における「乱心」の認識と村落共同体におけるその利用</p> <p>近世中後期宮座の変容と村政－紀伊国名草郡直川村を事例に－</p> <p>幕末の長崎地役人と海軍伝習－安政年間における長崎海軍伝習を中心に－</p> <p>十九世紀松本藩における庄屋の役割</p> <p>豊臣政権と毛利氏について－豊臣期の「毛利両川」体制の再検討を通じて－</p> <p>幻の「灘市」建設計画－阪神間地域における独自性－</p> <p>戦間期における日本陸軍の総動員体制形成について 田中義一と永田鉄山のアプローチ</p> <p>戦後日本における学校教員と地域社会運動の歴史学的研究</p>  |   |
|         | アジア史学領域        | <p>清代前期の制錢供給政策－雍正から乾隆初期にかけて銭貴問題をを中心に－</p> <p>中華民国期における国民アイデンティティ－成達師範学校の生存戦略を事例として－</p> <p>清末における「国粋」論の展開－『国粋学報』と日本の国粋主義との関係を中心に－</p> <p>3～7世紀における半島系民族の中国移動とその活動</p>  |   |
|         | 西洋史学領域         | <p>ヘンリ8世時代イングランド海上軍勢力の近代化－技術と政治的要素の面における一考察－</p> <p>前4世紀以降におけるメッセニア人の「反スパルタ主義」の再検討－『ギリシア案内記』とメッセネの神域利用を通じて－</p>  |   |
|         | 総合心理学専攻        | 心理学領域  | <p>Parent Anger Scale 日本語版の作成および養育者のマインドフルネス傾向が怒りに与える影響の検討－怒り反すうを媒介要因として－</p> <p>短時間の即時的な関係反応と派生的で精密化された関係反応による社交不安症の否定的および肯定的評価への恐れへの検討</p> <p>大学生アスリートにおけるイップスの心理的症状に影響を及ぼす心理的要因についての検討</p> <p>メタ認知両方の観点からみた他者からの評価への恐れと社交不安症状との関連性についての検討－肯定的評価への恐れに着目して－</p> <p>平原ハタネズミにおける援助行動と情動伝染の検討</p> <p>アイデンティティと家族関係、愛着の内的作業モデルとの関連－日本人大学生と中国人留学生を対象に－</p> <p>認知症介護者を対象とした四無量心と介護負担感に関する調査</p> <p>バンドミック状況下の若手教員におけるストレス因の変化と校種別の比較検討 M-GTAを用いた探索的なプロセス研究</p> <p>マインドフルネス傾向が良性・悪性妬み傾向に及ぼす影響に関する縦断的検討</p> <p>自閉スペクトラム症児および知的能力障害児に対する要求場面における選択行動の獲得についての検討</p> <p>隠匿情報検査時の身体内部状態への注意に関する研究</p> <p>脳波のシータ／ベータ比と注意制御の関係について－特性と状態の観点による検討－</p> <p>児童青年用セルフ・コンパッション尺度の作成と信頼性・妥当性の検討</p> <p>教師の言語賞賛の増加と Check-In Check-Out の実施が小学校通常学級における児童の授業参加行動に及ぼす効果</p> <p>マインドフルな子育てと幼児の自己制御機能の関連の検討－育児ストレスと夫婦間コミュニケーションに着目して－</p> |

総合心理学専攻

|         |  |
|---------|--|
| 心理学領域   | <p>構造化された筆記開示法による思考の未統合感低減過程の検討</p> <p>自閉スペクトラム症児・ダウン症児におけるトークンの自己・他者貼付並びにバックアップ強化子の有無の効果</p> <p>大学生に対する刺激ペアリング手続きを用いた言語学習場面において音声呈示のタイミングが与える影響の検討</p> <p>中学生の硬式野球選手に対する行動的コーチングがスローイング技能の般化にもたらす効果</p> <p>前肢伸展触刺激弁別課題：感覚運動学習研究のための新たな実験課題</p> <p>ASD傾向を考慮した大学生の抑うつ状態に対する対人関係 カウンセリングの有効性の探索的検討</p> <p>学生の不眠に対する簡易型認知行動療法を応用した睡眠教育の効果</p> <p>自閉スペクトラム症児およびダウン症児におけるカテゴリー化の過程および促進手続きの検討</p> <p>Spatial and temporal contexts modulate attentional selection</p> <p>簡易型認知行動療法を応用した個別栄養教育の抑うつ状態・不安への効果検討～オメガ3系不飽和脂肪酸の積極摂取を介して～</p> <p>未就学の自閉スペクトラム症児・ダウン症児におけるトークンエコノミーの導入研究</p> <p>ADHD 症状をもつ大学生の抑うつ状態に対する対人関係カウンセリングの有効性の探索的検討</p> <p>日本における性的マイノリティの人々のメンタルヘルスの現状およびメンタルヘルスに関わる心理学的モデルの検討</p> <p>ストレスコーピングスタイル別の大学生の閾値下抑うつに対する対人関係カウンセリングの効果</p> <p>アレキシサイミアを対象にした援助意図を促進する感情的・認知的要因の検討 -イラスト刺激と文章刺激を用いて-</p> <p>自閉スペクトラム症児およびダウン症児における表情弁別訓練の促進手続きについての検討</p> <p>敬語と空間的上下との連合に社会的地位は介在するか</p> <p>現実場面における周辺情報が表情認知に与える影響についての実験的検討</p> <p>女子大学生におけるリスク要因に基づく摂食障害予防</p> <p>アスリートの完全主義が抑うつ症状とスポーツパフォーマンスに及ぼす影響</p> <p>感謝が 向社会的行動を促進する心理過程の解明</p> <p>社会的文脈におけるパフォーマンスモニタリングシステム：報酬予測誤差の特徴に関する検討</p> <p>幼児期前期における共感の発達 - 正の共感や状況的要因を踏まえた包括的検討 -</p> |
| 学校教育学領域 | <p>教育現場におけるセクシュアリティの多様性に関する課題 - 教員養成課程導入を視野に -</p> <p>生涯学習における音楽活動の意義 - 大正琴の音楽活動を通して -</p> <p>高等学校国語科「書くこと」に関する指導の一考察 - 「思考力、判断力、表現力等」を働かせて「書くこと」のために -</p> <p>コロナ禍における適応指導教室 - 職員へのインタビューから -</p> <p>学校教育における「読書活動」の意義 - 中学生対象の質問紙調査の結果などをもとに -</p>   |

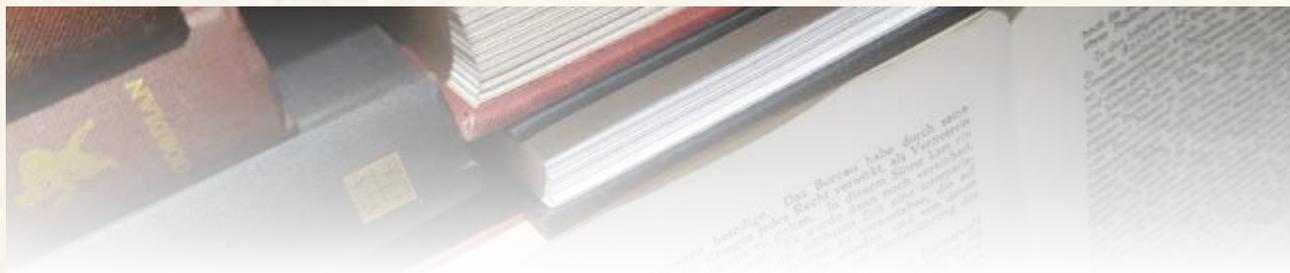
文学言語学専攻

|                    |   |
|--------------------|---|
| 日本文学<br>日本語学領域     | <p>森鷗外の大正期の小説に関する研究 - 大正三年から大正五年までを中心に -</p> <p>初期江戸川乱歩作品の変遷軌跡に関する研究 - 深層心理への追及と前近代要素の展開を中心に</p>  |
| 英米文学<br>英語学領域      | <p>English Copy Raising and its Consequence of Case Theory</p> <p>Seeing and Believing in Some Short Stories of Flannery O'Connor</p> <p>Agreement of Auxiliary be and do in Child English</p> <p>The Boat inside of the Heads : A Study of Death of a Salesman</p> <p>The Defiant and Obedient Protagonist in Marlowe's Doctor Faustus.</p> <p>What Is a Man?: The Collapse of the Boundaries in Shakespeare's Plays</p> <p>Ropes and Execution: Symbolical Blood Relationships in Melville's Writings</p> <p>Reconstruction of the Story of the Voiceless: Narrative Structure, Fragmentation, and the Reader's Participation in Toni Morrison's Novels</p> <p>The Rhetoric of Textual Flaws: A Study of Herman Melville's Writings</p> |
| フランス文学<br>フランス語学領域 | <p>書かない女と書く女 - コレットの La Vagabonde 『さすらいの女』をめぐって -</p> <p>所要時間を表す前置詞 en について</p> <p>フランス語の現在分詞とジェロンディフ - 同時性の用法をめぐって -</p>   |
| ドイツ文学<br>ドイツ語学領域   | <p>hin/her と gehen/kommen のダイクシスを巡る問題</p> <p>書物芸術のなかの〈風景画的表現〉ハインリヒ・フォーゲラーの書物芸術に対する考察</p> <p>手塚治虫の〈ファウスト三部作〉にみる悪魔像 - ゲーテ版『ファウスト』と比較して</p> <p>ドイツ語心態詞 denn 「受け手に対する話し手の感情の喚起」の観点に基づく検証と分析</p> <p>日、中、独、英におけるキャッチコピーの認知言語学的研究</p> <p>現代ドイツ語における Anglizismus の形態・意味・統語の視点からの考察：「賢い」に関連する語義を有する形容詞を中心に</p> <p>Eine semantische Untersuchung zu Partikel- und Präfixverben mit um</p>   |

前期課程

後期課程

# 文学研究科博士課程 学位取得プロセス



## 【前期課程】

| 学年・学期 | 必修科目履修<br>関連事項      | 選択科目履修関連事項  | 修士論文関係                                       |
|-------|---------------------|---|--|
| 1・春   | 〇〇学研究演習<br>(2単位)を履修 | 指導教員の指導のもと、文学研究科<br>内規別表1に定める各専攻・各領域<br>の博士課程前期課程授業科目一覧に<br>ある選択科目を履修。修了のための<br>取得必要単位数は24。 | 修士論文指導は入学時に定め<br>た指導教員が随時行い、2年<br>生秋学期に提出する。 |
| 1・秋   | 〇〇学研究演習<br>(2単位)を履修 |   |  |
| 2・春   | 〇〇学研究演習<br>(2単位)を履修 |   |  |
| 2・秋   | 〇〇学研究演習<br>(2単位)を履修 |   |  |

必修科目(〇〇学研究演習)8単位、選択科目24単位、計32単位修得と、修士論文審査の合格をもって博士課程前期課程の修了とし、修士学位を授与する。

## 【後期課程】

| 学年・学期 | 必修科目履修<br>関連事項       | 博士論文関連事項                          | 期 間       |
|-------|----------------------|-----------------------------------|-----------|
| 1・春   | 研究演習(2単位)<br>を履修     |                                   |           |
| 1・秋   | 研究演習(2単位)<br>を履修     | 「博士論文計画書」の提出(本人→事務室)              | 12月1日～20日 |
|       |                      | 「『博士論文計画書』審査報告書」の提出<br>(指導教員→事務室) | 2月15日     |
| 2・春   | 博士論文作成演習<br>(2単位)を履修 |                                   |           |
| 2・秋   | 博士論文作成演習<br>(2単位)を履修 | 「博士予備論文」の提出(本人→事務室)               | 11月1日～30日 |
|       |                      | 「博士予備論文」の審査(指導教員→事務室)             | 2月15日     |
| 3・春   | 博士論文作成演習<br>(2単位)を履修 |                                   |           |
| 3・秋   | 博士論文作成演習<br>(2単位)を履修 | 「博士論文」の提出(本人→事務室)                 | 11月1日～30日 |
|       |                      | 博士論文審査委員の決定(研究科委員会)               | 12月       |
|       |                      | 博士論文公开发表会                         | 12月～2月    |
|       |                      | 最終試験(口頭試問)(博士論文審査委員)              | 2月        |
|       |                      | 論文審査(研究科委員会)                      | 3月        |

必修科目(研究演習、博士論文作成演習)12単位修得と、博士論文審査の合格をもって博士課程後期課程の修了とし、博士学位を授与する。



文学研究科 HP

<https://www.kwansei.ac.jp/graduate/humanities/>



文学研究科 入試情報

<https://www.kwansei.ac.jp/graduate/admissions/humanities/>



進路・就職の状況

<https://www.kwansei.ac.jp/about/disclosure/career/>



文学部 SNS Instagram

[https://www.instagram.com/kg\\_humanities/](https://www.instagram.com/kg_humanities/)



文学部 SNS YouTube

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLuzNNtRO0U7qoeHs1b04oB\\_Jv-AJwLWLv](https://www.youtube.com/playlist?list=PLuzNNtRO0U7qoeHs1b04oB_Jv-AJwLWLv)





関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY